

がんばれ国境の島対馬 ふるさと応援基金活用事業

平成20年10月からスタートした対馬市のふるさと納税制度も7年半が経ちました。寄付者の皆さまからいただいたご寄付は基金として積立てており、平成23年度からはこの基金を活用して事業を行っています。
今回は、昨年度(平成27年度)の取り組み内容をご報告いたします。

平成27年度実施事業

事業名: 海洋保護区設定推進PRツール制作事業
基金充当額: 2,084,400円

(施策区分①: 豊かな自然環境の保全や歴史的景観の維持、再生に関する事業、⑦: 市長が特にふるさと対馬の将来に向けて寄与すると認める事業)

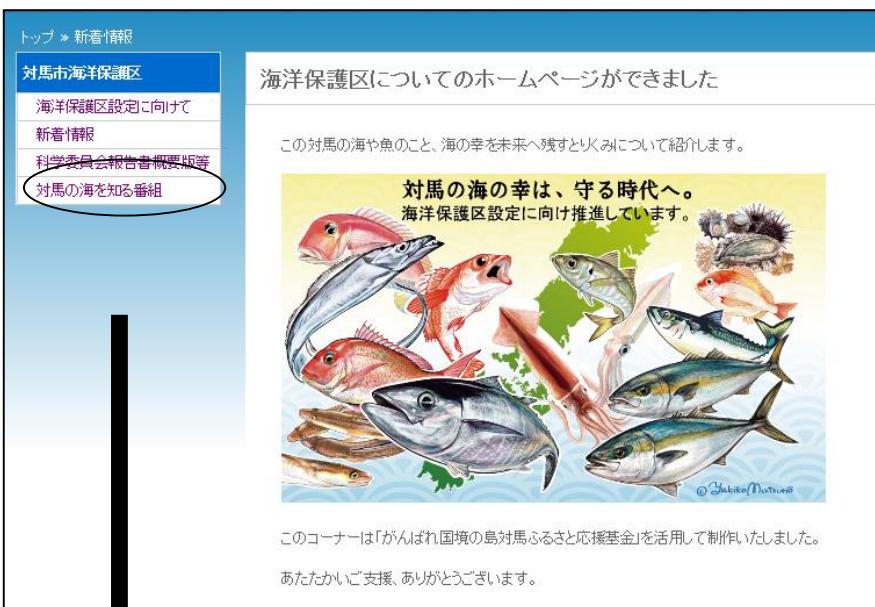
・対馬市では、対馬海域の水産資源を持続的に利用していくため、資源管理型漁業の確立と対馬型海洋保護区の設定を目指しています。

・平成27年度は、皆様からの寄付金を活用させていただき、対馬海域の重要性や海洋保護区の必要性を広く周知するためのPRツールとして、ホームページ、PR番組、展示用ポスターデザインを制作しました。

・「海洋保護区設定推進ホームページ」へのアクセスは、こちらからです(QRコードは左)。

<http://www.city.tsushima.nagasaki.jp/kaiyohogoku/>

また、同ホームページでは、「海洋保護区設定推進PR番組」も公開していますので、ぜひご覧ください。



海洋保護区設定推進ホームページ

クリック!



海洋保護区設定推進PR番組



展示用ポスター(一部)

平成28年度も活用事業決定！

ふるさと納税で集まったご寄付を使って行う事業は、若手の審査員5名に対して事業提案者がプレゼンテーションを行い、質疑応答と審査を経て、一定基準を満たした事業のみが採択され、実施されます。

平成28年度実施分は3件の事業(8,466,000円)が採択されました。



審査会の様子

事業①: 対馬の地場産品を使った「船弁」試験販売

基金充当額: 2,000,000円(予定)

(施策区分⑤: 対馬の資源を活かした地場産品の研究開発や販路拡大に関する事業)

厳原港(対馬市)・博多港(福岡市)で、対馬の特産品を使用してつくった駅弁ならぬ「船弁」を試験販売します。この試験販売では、対馬市島おこし協働隊(地域おこし協力隊)の垂永晶憲隊員が主体的に取り組んでいきます。



対馬産どんこしいたけ



ツシマウラボシジミ

事業②: ツシマウラボシジミ生息環境保全・再生

基金充当額: 2,166,000円(予定)

(施策区分①: 豊かな自然環境の保全や歴史的景観の維持、再生に関する事業)

対馬固有種でありながら絶滅が危惧されている体長約1cmの蝶、「ツシマウラボシジミ」の生息環境を守るため、飼育下繁殖や保護区の設置を進めていきます。

事業③: 対州馬保存計画の策定

基金充当額: 4,300,000円(予定)

(施策区分①: 豊かな自然環境の保全や歴史的景観の維持、再生に関する事業)

島内に38頭しかいない日本在来馬の1馬種、「対州馬」をこれからも守っていくため、飼育・繁殖に関する保存計画を策定します。



対州馬

対馬市ふるさと納税制度の変換点

1. 寄付事業が変わりました。

今までは、「自然環境」「地場産品」といった分野別の事業区分でしたが、これまで以上に対馬らしい事業を行っていくため、具体的に事業内容を掲げて寄付をお待ちしております(いわゆる「ガバメントクラウドファンディング」方式を採用)。

2. 返礼品の導入を検討します。

今年度より、返礼品の導入について進めていきます(平成28年度中を予定しております)。

引き続き、対馬市への応援をお願いいたします。